

こんなところに 市民憲章

1. 富士山のように 高く
教養を深め
視野のひろい市民となります



童謡を愛する心で

大淵第一小学校の2年生が歌っているのは、加藤省吾さん作詞の「みかんの花咲く丘」。きょうまで毎日「朝の歌」で一生懸命練習してきました。やさしい歌声が、風に乗ってあたりいっぱい広がります。

大淵第一小学校は、加藤省吾さんが通った学校。校庭には、「かわいい魚屋さん」の歌碑もあります。

この日は、加藤さんと親しい作曲家、横山太郎さんや大和市の大和童謡の会、また大淵公民館のコーラス部員も一諸に合唱しました。童謡を愛する心で、人と人との心をつなげようと考えているみなさんです。

——高山祭りってどんな？
由理子さん「春と秋の屋台がけんらん豪華。町内ごとに屋台がありますから、引つ張る人や行列に加わる人で、大人も子供も百人くらいが参加します。笛や太鼓のおはやしにぎやかだし、屋台のちょうちに火を入れる夜祭りが最高です。ごちそうは、お赤飯やおすし。赤カブの漬物もおいしいです」

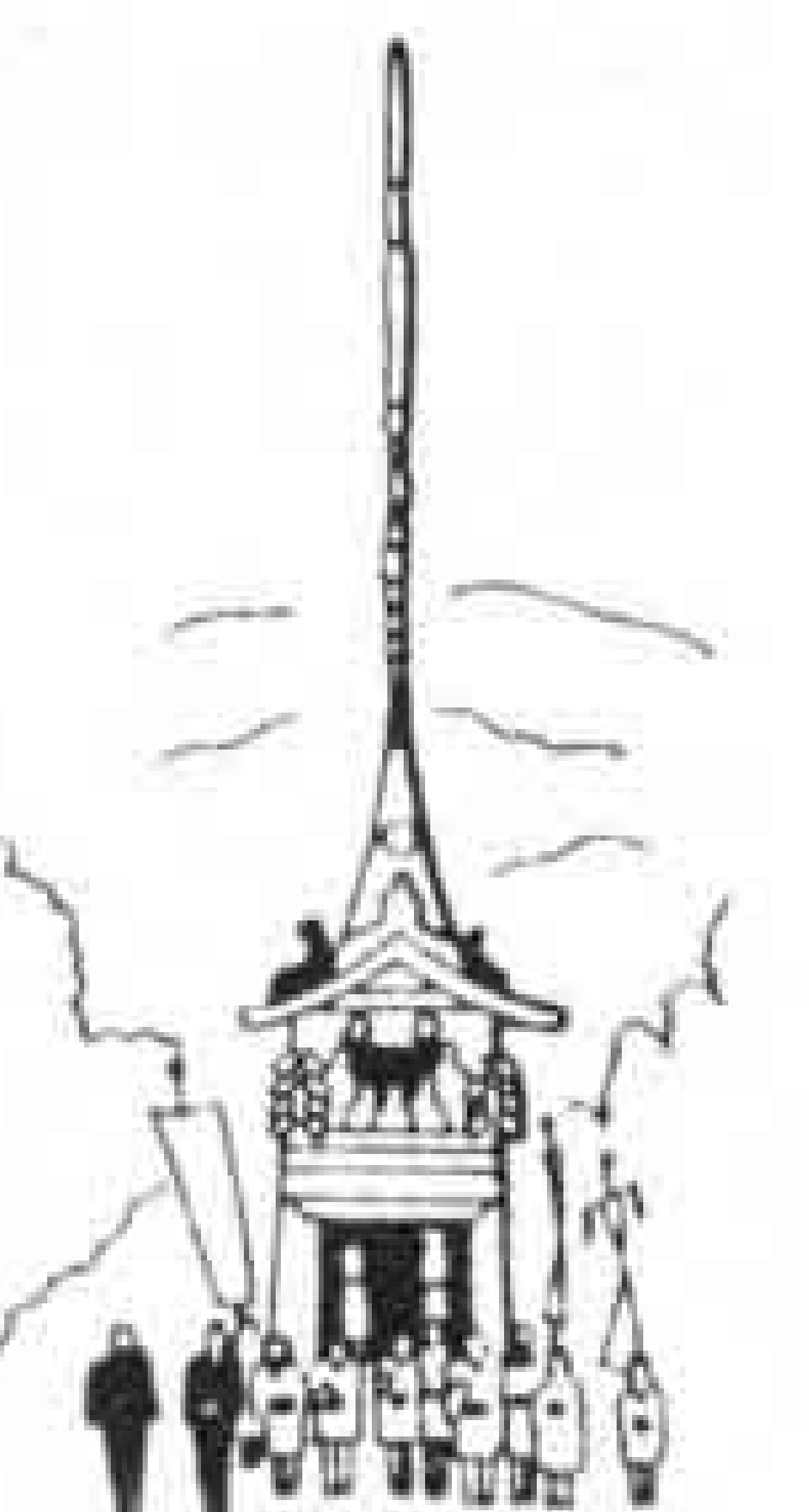
——生まれも育ちも高山の由理子さん、富士の暮らしはいかがですか？
由理子さん「やっぱり、空気はよくないと思います。でも、ちよつと足を伸ばせば自然にも恵まれている所ですね。富士の気候はいいです。去年の十月に来ましたから、まだ夏の経験はないのですが、雪

が降らなくて過ごしやすかったです。子供の洗濯ものも外に干せました。高山では吹雪の日も、学校へ行くのにも通勤にも大変でした」
浩一さん「高山の夏も暑いと思うけれど、エアコンを入れている家は少ないですよ。扇風機で十分。湿気もないから、サラツとしていて気持ちがいいです」
——ありがとうございます。富士まつりにも、お出かけください。

高山祭りは夜が最高

ごちそうはお赤飯とおすし

澄んだ空気と朝市、そして千本格子の町並み。日本のふるさととも言える、飛驒の高山から、森下浩一さんご一家(依田橋町)が引つ越してこられました。高山祭りのお話をあれこれ伺いました。



△真希ちゃんと生まれたばかりの若奈ちゃん

落語でほっと一息 「富士落語会」の幹事

せい 清 宏子さん

(本市場)



富 士落語会の創立。

「これ、ちよつと見てください」。一枚の紙に、駿河豆本の会、はめ字家元会、みくりや寄席、旨いもの会、はんにや党など、趣味の会がずらつと三十余り。ほとんどの会が沼津。「富士にも、こんな会が欲しくって」、「富士落語会」をつくったのが、清宏子さん。そんなに宣伝したわけでもないのに、たちまちのうちに三十五人のメンバーが勢ぞろい。顔ぶれは、会社役員、公務員、自営業、主婦、医師など、職種はさまざま。「皆さんも、きつと何か欲しいと思っ



てたんですね。私は、いつも後ろの方でチョロチョロしているお手伝いさん。司会、舞台、片づけ、あとの懇親会係と、当日はいろいろな役割分担があります。はなし家さんを囲んでの懇親会が、また楽しいんですよ。はなし家さんの裏話が聞けたり、大勢の人のおもしろい話が聞けますから」
次 は、美酒に酔う会でも。
清さんは、忙しい救急病院の総務長さん。生と死や、親子のはざままで、揺れる心の相談を受けることも多いと言います。そんな中で、スーツと入っていた世界が落語。「落語は、やっぱり日本の心。気分転換もできるし。八月二十六日に、第四回目を計画しています」
清さんは次に、うまいさかなで、うまい酒を少々飲む会を計画しています。体と心が、ほんわか暖かくなったら解散。「ただ今、会員募集中です」